

七三だより 臨時号

令和7年度第1回学校評価結果

令和 7 年 11 月 25 日
京都市立七条第三小学校
校長 中野 真吾

学校教育目標

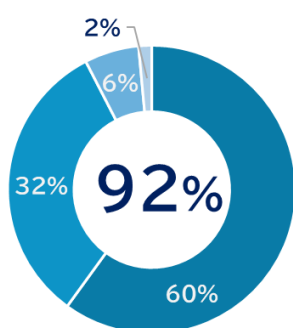
未来を拓く ～めざそう！ 誇れる自分～
自ら学ぶ子 深く考える子 協力する子

お忙しい中、第1回学校評価アンケートにご協力をいただきありがとうございました。結果についてまとめましたので、お知らせいたします。

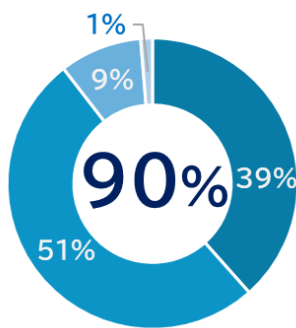
学校は楽しい

(保護者)お子さんは、学校を楽しんでいると言っていますか。

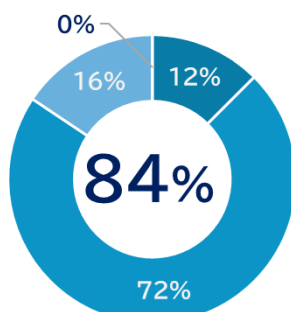
(教職員)学校生活のあらゆる場面において、子どもが主体的に取り組める活動を意図的に行っている。



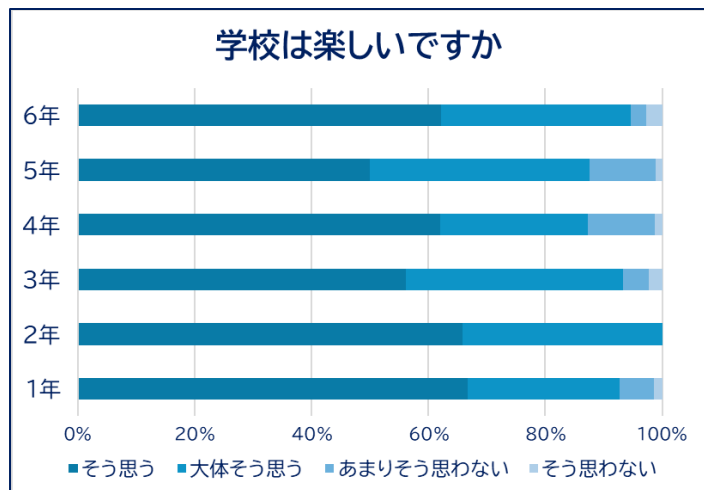
児童



保護者



教職員



「楽しい学校は自分たちでつくる」を合言葉に、6年生が中心となって委員会活動などで積極的に活躍しています。その結果、児童からは「学校は楽しい」という項目で高い満足度が示されました。この取組が、七条第三小学校の伝統として今後も受け継がれていくことを願っています。

さらに、保護者の皆様からも約 90%という高い評価をいただきました。子どもたちが学校での楽しい活動を家庭で話題にし、その様子が保護者の耳にも届いていることがうかがえます。学校と家庭がつながり、子どもたちの主体的な活動が共有されていることは、七条第三小学校の大きな強みです。

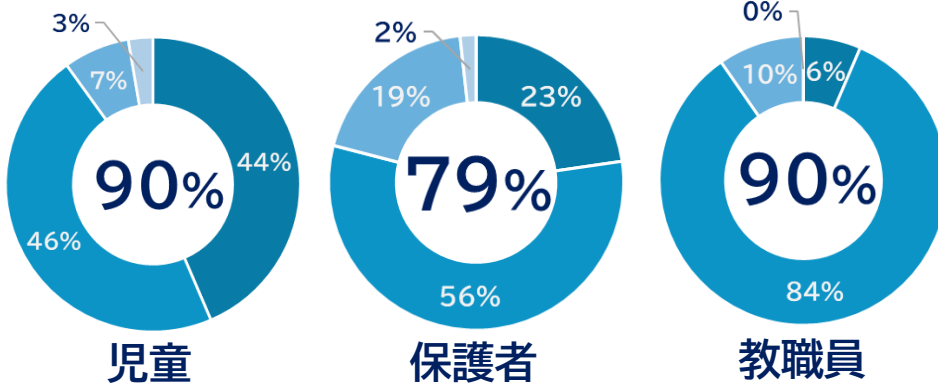
子どもにとって楽しい学校とは？

子どもにとって楽しい学校とは、自分の思いや考えを安心して表現でき、友だちや先生と温かく関わりながら、毎日を過ごせる場所だと考えています。「自己存在感」や「安心できる人間関係」が大切にされており、子どもが自分の居場所を感じ、主体的に活動できることが「楽しい」と感じる土台になります。授業や行事、委員会活動などを通して、自分の役割や成長を実感できることも大切です。学校と家庭、地域が連携し、一人ひとりの子どもが自分らしく輝ける環境づくりを、これからも大切にしていきたいと考えています。

授業は、楽しくよく分かりますか

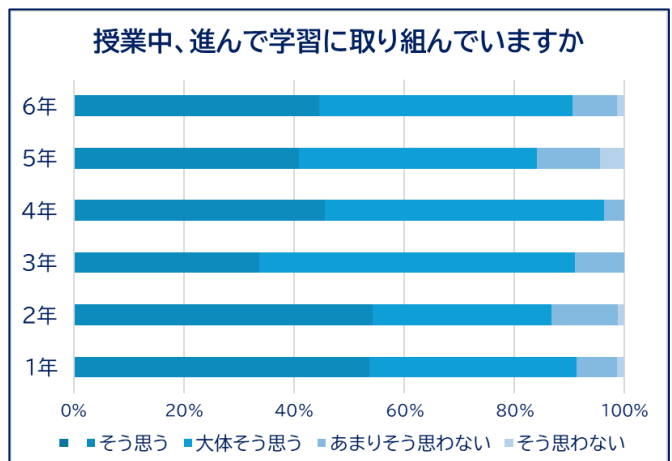
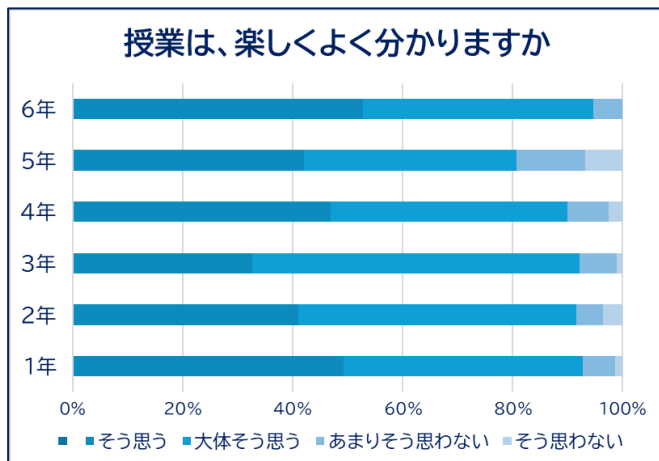
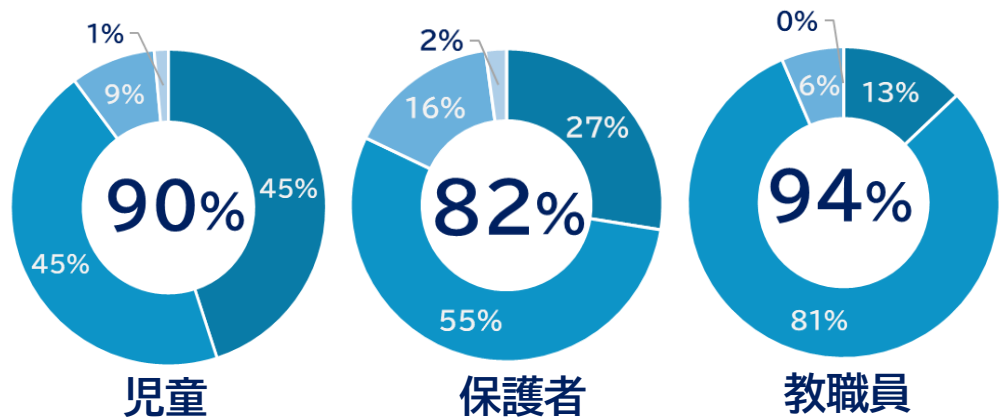
(保護者)お子さんは、授業が楽しくよく分かりますか。

(教職員)基礎・基本の学力の定着を図る取組を行っている。



授業中、進んで学習に取り組んでいる

(教職員)子どもたちが主体的に学ぶ授業の工夫を行っている。



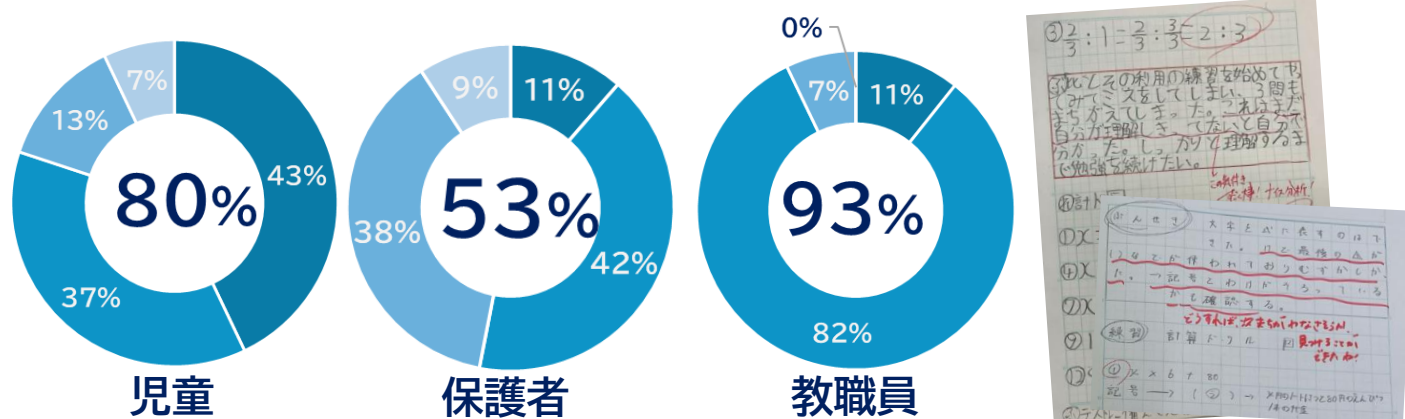
「授業はよく分かりますか」という項目では、児童・教職員ともに約 90%が肯定的な回答でした。学年別では 5年生のみやや低めでしたが、他の学年は 90%前後と高評価です。一方、保護者の皆様の評価は約 79%と、児童や教職員よりやや低い結果となりました。

また、「授業中、進んで学習に取り組んでいますか」でも、児童・教職員は 90%を超える高評価でしたが、保護者の評価は約 82%と、こちらもやや低めでした。

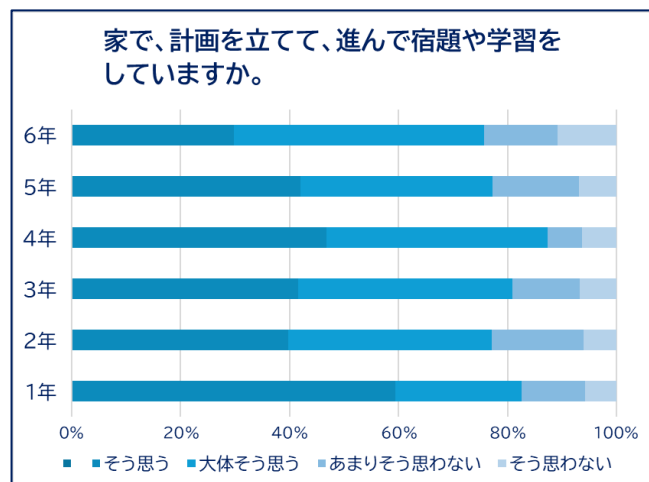
この結果から、児童や教職員は授業に高い満足度を感じている一方、保護者の皆様の評価はやや低めであることが分かります。ご家庭でのお子さんの様子や発言が、学校での学びと必ずしも一致しない場合もあるかもしれません。今後も、学校とご家庭が連携しながら、子どもたち一人ひとりにとってより良い学びの場をつくっていきたいと考えています。

家で、計画を立てて、進んで宿題や学習をしている

(教職員)子どもが計画を立てて進んで学習するよう、家庭学習への働きかけや宿題の出し方の工夫を行っている。

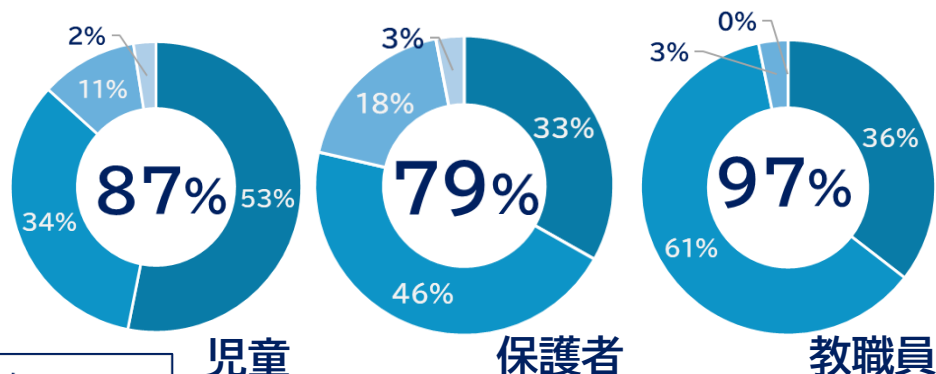


総合的に見ると、児童は家庭学習に前向きな意識を持っていますが、学年が上がるにつれてやや低下傾向が見られます。保護者は児童よりも厳しい評価をしており、「そう思う」との回答は少数です。教職員は家庭学習への働きかけに高い自己評価を持っています。本校では、子どもたちが学校で学んだことを家庭でも活かし、自ら学ぶ力を育てることを大切にしています。特に高学年では、自分でめあて(計画)を立て、実際に問題を解いて(テスト)、その結果を振り返る(分析)という一連の流れを重視した家庭学習に取り組んでいます。ご家庭でも学びの目的や楽しさについて話し合っていたけると幸いです。



自ら進んで挨拶をしている

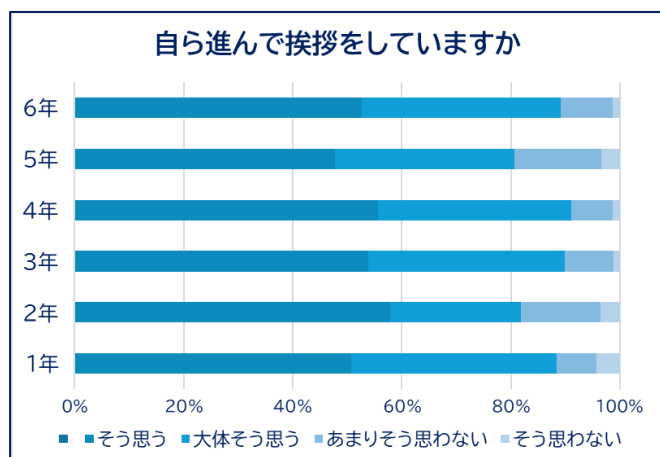
(教職員)子ども・地域・保護者へ、自ら進んで相手に届く挨拶を行い、範を示している。



児童

保護者

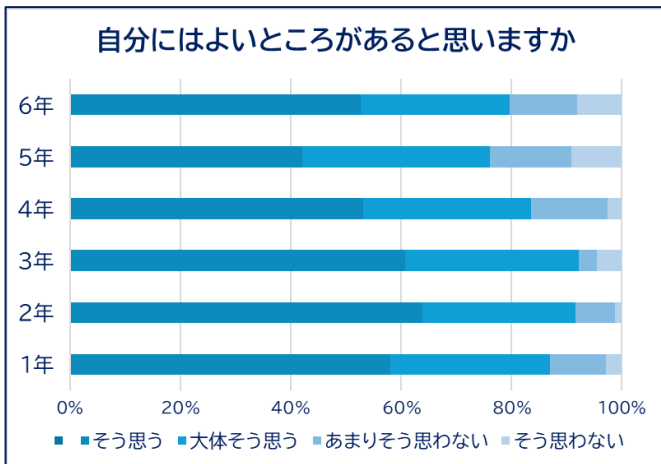
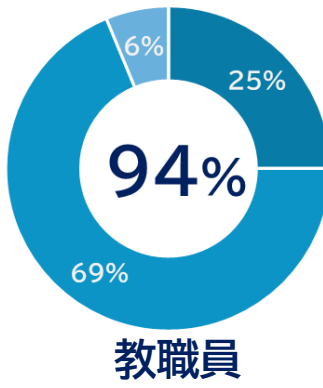
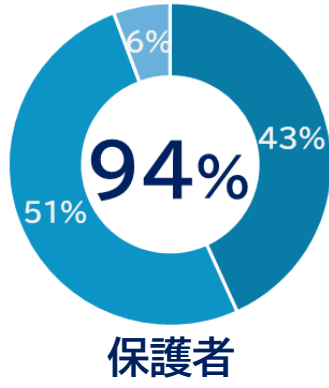
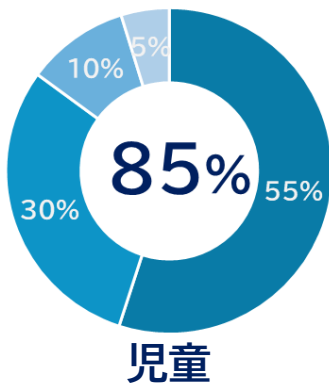
教職員



子どもたちが自分から進んで挨拶する姿が広がり、アンケートでも児童・保護者ともに高い評価が見られます。特に高学年ほどその傾向が強く、教職員も手本となるよう努めています。最近では地域の方から「子どもたちの元気な挨拶で朝から元気をもらっています」との嬉しい声も増え、挨拶の輪が学校・家庭・地域へと広がっています。今後も気持ちのよい挨拶を大切に育てていきます。

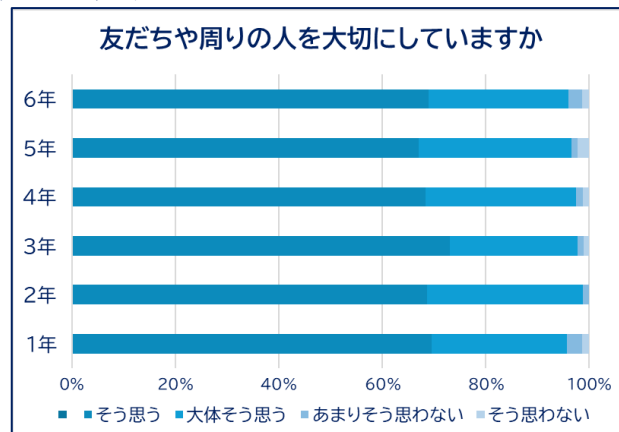
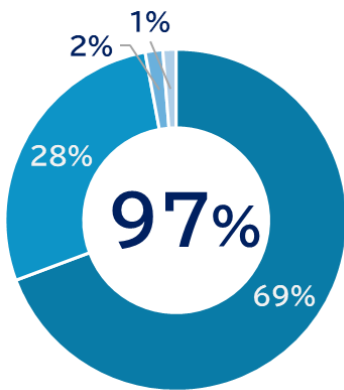
自分には良いところがあると思う

(保護者・教職員)子どもの良いところを本人に伝えている。



保護者や教職員が「子どものよいところを認め、伝えている」と感じている割合は高い一方で、児童自身が「自分にはよいところがある」と感じている割合は、保護者や教職員と比べるとやや低めです。特に高学年になるほど自己肯定感が下がる傾向が見られます。これは、成長とともに自分を厳しく見たり、周り比べる機会が増えたりしていることが影響しているのかもしれませんが。日々の授業や学校生活の中で、子どもたちの頑張りや成長を具体的な言葉で伝えたり、友だち同士で認め合う場面を作ったりするなど、学校全体で温かい声かけを意識していきたいと思います。

友だちや周りの人を大切にしている



児童の多くが「友だちや周りの人を大切にしている」「大切にされている」と感じており、特に低学年から中学年では肯定的な回答が目立ち、温かい人間関係が築かれている様子がうかがえます。一方、高学年では自己評価がやや控えめになる傾向も見られました。引き続き、「未来を拓く～めざそう！ なりたい自分～」の学校教育目標のもと、子どもたち一人ひとりの成長や学びを大切に、温かい学級・学校づくりを進めていきます。

友だちや周りの人から大切にされていると思う

